





昭和五十三年度役員

顧問

岩田孝三 浅井得一

大橋与一 山口俊作

山本正一 吉田結美

長島弘道 山辺功二

田渊洋 大崎晃

石母田武 户田為之

斎藤毅

監査 大橋与一 户田為之

幹事

代表 四年 小峰幸久(埼玉)

副代表 三年 児玉武寿(三重)

総務

三年 佐々木司(北海道) 斎藤義昭(千葉)

二年 藤森公二(石川) 崎村卓史(宮崎)

松田 涉(北海道) 香川典子(神奈川)

手取久子(北海道)

一年 増井克幸(大阪) 越川 潤(千葉)

館向 浩(青森) 門田千代子(高知)

市川志津子(東京) 手川さつき(東京)

佐藤雪枝(秋田)

会計

三年 長谷川教(広島) 一年 出井富士夫(神奈川)

二年 宮崎勝浩(大分)

編集

三年 田中清彦(東京) 池田雅広(北海道)

木村桂子(山形) 安田さとし(島根)

二年 八久保厚志(熊本) 一年 加藤久幸(広島)

宮本美代子(山口) 吉川由利子(静岡)

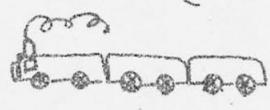
# 子びしい就職戦線

頑張って下さい四年生

四年生の方々は、現在就職試験のため、毎日お忙しい日々を送っておられます。それで、三年生以下で構成している編集委員会では、取材の機会を逸しましたため、誠に不備ではありますが、五月の末に行なわれた巡検の行程をここに記すにとどめます。

## 巡検行程

- 学校 → 成田 → 佐原 → 那珂湊 → 東海村
- 常陸太田 → 水府 → 大子 → 矢祭
- 塙 → 棚倉 → 自河間跡 → 南湖公園
- 甲子温泉 → 白坂 → 那須疎水 → 大田原神社
- 学校



まり

# 巡検地決定!

三年生の巡検地が遂に決定した。場所は石川県金沢。期日は十月十日から十四日まで。四泊五日。間、宿泊地は金沢郊外の湯涌(あく)温泉になった。集合は原地集合となるため、各人がそれぞれ自分に分、た方法で金沢へたどりつくよう計画を練っているようです。どのような方法で行くか、三の例をあげてみました。最も安い方法として、自動車を数人で組んで乗って行く。かか、たがソリン代も行く、た人数で割ると安く行けます。他に上野から夜行下酒を組みながら、一晩かけてのんびりと行く方法、新幹線を使って早い割高な方法、下野の日に出発して着く方法、さらに自宅が金沢から近ければ、早めに帰省してのんびりと行く方法もあります。君はどの方法を選びますか？

学生もできることながら、諸先輩の方法に興味があることでしょうか。飛行機で行くのでしょうか。ちや、かり先生に、ついて行くという心臓の強い学生もいると聞いて、驚かされた。……

とにかく帰りも原地解散です。帰る時になって路頭に迷うことのないように十分気を付けましょう。



# 巡検終る

# 年 学

我々二年生は六月二十日、二十一日の両日、八ヶ岳方面への巡検を行つた。二十日の日は朝才好天気であつたが、御坂峠を越えるあたりから雨が降り始め、第一日の残りの行程と、二日目は雨にたたられてしまつた。このために、富士山、赤石山脈、関東山脈の遠望や、御台の扇状地の全望が望めなかつたのは残念であつた。

岩田先生、浅井先生、大崎先生、吉田先生、それに青藤先生による御指導は、とてもきめ細やかで、メモするのにも忙しい程であつた。

可すしいハヶ岳より新宿へ、天国より、...へ的心境下、暑い暑い東京へもどり巡検の全日程を終る。

可すしい旅であつた。

## 楓門祭について

楓門鶴川寮に、地理学専攻も参加することとし、現在活動を進めている。今年には、昨年の経験を生かし、大衆向け、地理学生向けの二本立てで、企画を進めている。有志の参加を求めているが、種事が多いためか、手伝いの人数が少いのが悩みの種である。鶴川校舎一、二年生の有志を求む。

らなみに、具体化している企画としては、映画の映写会を無料コーナーにつき下楽しんでもらおうという事が決つている。

## 巡検への期待

我々一年生は希望に胸をふくらませ、国土館大地理学科に入学し、三ヶ月余りが過ぎました。今日に地理とは何かと考える時があります。

本年度より国土館大学にも地理学会が発足し、その年に入学できたということは大変嬉しく思っています。

一年生の巡検は、十月中旬祖父方面にたいたい決定しようです。我々一年生は、とても不安です。先日は、吉田先生の授業の際、二年生の巡検の話をして聞いて自分たちにもできるのぢやうかと思つた。不安が大さくなく、少し手いしました。その反面、土地の事をいろいろ勉強できるのを望み、一年生とひえました。この巡検を、かけに我々一年生もさらに一歩先輩の方の中に足を踏み入れることが出来ると思います。この先、先輩方とお話をすることもお勧めです。その時は我々一年生に

# 1 年

# 変わるか世界石油地圖!!

日本でも石油の自給ができるという夢のような話がある。先づの国会で「日韓大陸棚協定」の国内閣連法案の成立で具體化しようとしている。

油田地帯が、東シナ海の海底油田に匹敵する程度の事は昭和四十三年の「エカフエ」レポートが発端となつてゐる。

資源エネルギー庁は、埋蔵量約三億七六〇〇万と計算してゐるが、他に業界計算とか韓国計算ともいふものがある。五〇億もあるいは三〇〇億ともいふわかれてゐる。

しかし、これらの数字も怪つてみなくてはならない。この数字が本音であつて、新潟県の阿賀沖田・がス田のように一本の井戸で命中させるのは至難の技といわれる。一本の井戸を掘るのに二〇億円から二十五億円かかるというが、もし出ない場合は全てが無になるわけである。資源小国

日本が、かつての北海油田にイギリスかかけた夢と同様な夢、かかなうかどうか、それによつて世界の油田政策にどのような影響をあたえるか、結果がわかるのは早くても八年かかるといわれないが期待したいものである。

## 学園祭にむけて

本校編

十一月の学園祭にむけて、地理学会では現在假員レールで各社の催しを企画してあります。この

ような案が出されてゐるか紹介しましょう。生活に結びついた身近な地理も展示する。地圖のできるまでを器材を含めて展示する。大学のようすを知つてもらうため、学生有志によつて、研究発表を行う。地圖を使つて簡単な作業をやつてもらい自作の單位認定証を交付する。スライド上映等がでてあります。

会員のみなさん、その他よい企画がありましたら役員の方へ申し出てくだささい。今度の学園祭を会員相互の協力によりよいものとして築き上げようではありませせんか。

### 鶴川編

本年度の楓門鶴川祭は、十一月四・五日に行なわれ、地理学会として初参加であり、会員と役員・会務相互の交遊を第一と考え機業性の強いものを行ないたいと考えられています。一部昨年度と重複する所もありますが次の取組を予定してあります。

一、サロン形式によるスライド映画（巡遊・外国など）、二、巡検隊員の展示、三、全国新道府県観光本スタ一展、四、地理学会各員の郷土物産品・民芸品展、五、五〇ミリもしくは16ミリ映写会、六、クイズ大会、（一）なおこれらに参加される方には、無料コピーをさせていただきます。

今回の学園祭を成功させるには会員のみならずの協力が是非必要となります。つきましては、準備の際に物産品または民芸品とできましては、観光協会のスタ一を必ず持参してください。何分未熟ですの不十分点があります。何分未熟ですの不十分点があります。

# 各係から

(学会役員会からの連絡)

## 会計からの連絡

まず最初に、会費未納の学生会員は、早急に会費を各学年の会計担当の学生会員または、鶴川の有藤教学生主事までに納入して下さい。

現在の学会の運営費は、二百数名余の会費費によつて、残高七万内余あります。尚、運営費の管理の直接責任者には、鶴川の有藤教学生主事に役員からの要請をお願いしております。したがって、会計の役員は、もっぱら運営上で、現金支給の必要性の有無を審査することにあたっております。

## 総務からの連絡

このたびの楓門祭に地理学会として参加しますが、その企画内容を募集しております。ユニークなアイデア、企画内容ありましたら、どんな声もきかせて下さい。教室は標本室を使う予定です。なお、後日学祭に関するアンケートを実施しますので御協力を願います。

## 伝言コーナー

僕達は国鉄、私鉄の興行切符、記念切符をあつめている有志です。夏休み帰省の時に地元の興行入場券、切符を買ってきて下さい。御協力よろしくお願います。

文31613 西田裕一  
文3161 西見五武寿

# 編集部からの投稿企画の募集

只今編集部では、会報の紙面をより充実したものとしたい。会員のための会報となることを目指し、会員の皆様からの投稿及び企画の募集をしております。

会員諸氏の御意見、御希望などございましたら、どしどし編集部までお寄せください。編集部では、今後の会報誌上にて、どんな採り方をしていく方針でおりますので、どうぞよろしくお願いたします。

参考までに、編集部の中から出された企画を、ここに紹介しましょう。

- ・地理学専攻の学生として思うこと
- ・ミニ論壇

## 会員伝言版

郷土紹介

会員の西田裕一君(三年三番)から会員の皆さんへ番組の紹介と聴取のお願い。

NHK横浜放送局(ハ・九メカヘルツ)

FM横浜リクエストアワー  
毎週土曜日 十五時十分～十八時

私が番組製作に参加している番組です。ワウワフオークの番組なので良かったら聞いて下さい。公開放送ですので暇な方は遊びに来て下さい。

# 編集後記

発会式が行なわれてからはや二ヶ月、例年早い早い梅雨明けとともにやってきた猛暑の中、ここに地理学会が最初に発行するところの会報創刊号を見ます。

夏休み前に第一号を出すという役員会の決定により緊急編集会議、日曜日における編集と慌しいなか取材に快く応じてくれた諸先生並びに会員の皆さん、また印刷を引き受けて下さった斉藤主事など多くの方々の御協力により発行に至り、何とかいえます。なお、この会報は原則として毎月一回というスケジュールで発行しますので、つきましては会員の皆さん、この会報の御願を御願いたします。また、この会報が国士館大学地理学会の発展に伴い、長く続くように会報の名称募集を致します可の、よろしく御願いたします。(田中)

初めての経験で、とまどったことが多かったけれど、どうやら発行することができてよかったです。今後は会員の皆さんからの投稿を唯一のたよりとしていませうの、どうかよろしくお願ひ申し上げます。(池田)

夏の暑い教日を、登戸のある一室で編集終了。創刊を出すにあたり、快い経験を得ること、かたがた、き感謝深い。できうるなら、この小誌が国士館大学地理学会発展の一翼を担うことを祈りたい。(八久保)

初めての会報完成。まだまだ未熟でついで行くのかやるとだ。でも暑いのに朝から出てきて書いたのだから、ウラスの皆さん、最後まで読んで下さいね。(宮本)

今回は特別参加で編集に立ちあいました。編集委員の皆さんもたいへん熱心で、今後よりよい会報が発行されることを確信していきます。(松田)

皆さんからの投稿並びに名称募集を御願ひします。(編集部一同)

昭和53年7月25日発行

第1号

〒154

東京都世田谷区世田谷4-28-1

発行

国士館大学地理学会

代表 岩田孝三

編集

国士館大学地理学会編集部

代表 田中清彦